

---

# 発散法と収束法

---

## 1. ブレーン・ストーミング法

アメリカの広告会社の副社長アレックス・F・オズボーン氏が開発した「脳の嵐」という意味の発散法です。4つの原則に則って、自由にアイデアを出します。

**自由奔放** どんなヘンなことを言っても許される。

**批判厳禁** どんなアイデアに対しても批判しない。

**質より量** アイデアは多ければ多いほうがよい。

**後出しOK** 他のアイデアから思いついたアイデアを出してもよい。

- ①机を合わせて場を設定し、中央に大きな台紙を置き、各自がカード（付箋）を持ちます。
- ②テーマについて、各自で、アイデアを思いつくままカードに書きます。1枚のカードに1つのことから、単語ではなくまとまった文で、できるだけ具体的に書きます。
- ③1人ずつ順番に自分のカードを読み上げて、台紙に適当に貼ります。すでに出ているものも貼ります。新たなカードを書き加えてもかまいません。
- ④繰り返して、できるだけ多くのカードを貼ります。
- ⑤制限時間が来たり、ペースが極端に落ちたら終了します。

## 2. KJ法

日本の文化人類学者川喜多二郎氏が開発した収束法です。カード化されたアイデアを、似たもの同士をグループ化し、タイトルをつけます。

- ⑥台紙に貼られたカードを眺めます。
- ⑦意味の近いカードをグループにします。まとめきれないカードはそのままにしておきます。新たに思いついたことがあればカードに書いて追加してもかまいません。
- ⑧グループごとに、その内容をあらわすタイトルをつけます。グループが大きい場合は、さらに小さなグループにして、タイトルをつけます。

## 3. 重要度チェック法

グループや個々のアイデアに重要度を評価します。

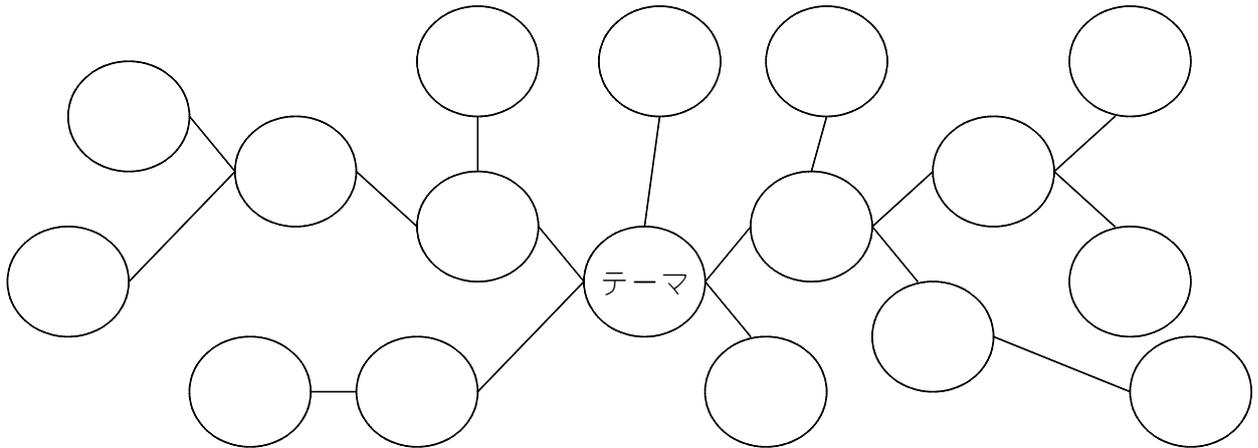
- ⑨グループや、グループ内の個々のアイデアに重要度を付けます。
- ⑩次の5段階にすると便利です。

5：たいへん重要　4：わりと重要　3：普通　2：あまり重要でない　1：重要でない

- ⑪意見が分かれた時は、高い方を優先します。

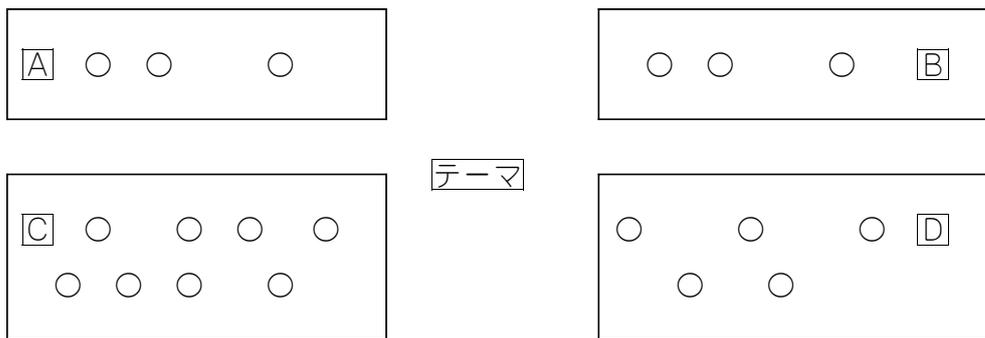
#### 4. ウェビング法

テーマから、蜘蛛が巣を作るように、次々に思いつくことをつなげていく発想法です。中央にテーマを書き、放射線状に思いつくアイデアを書き、○で囲み、線でつなげていきます。



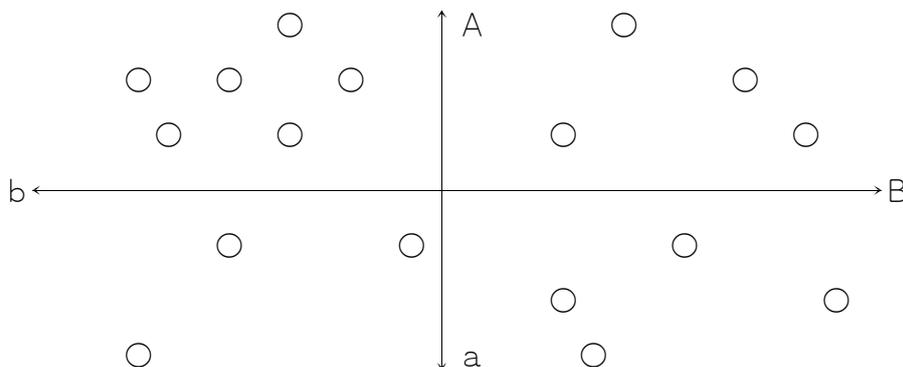
#### 5. マッピング法

テーマについて、いくつかの分野を設定し、アイデアを記入する発散法と収束法を兼ねた方法です。テーマの周囲にいくつかのエリアを配置し、そこに当てはまるアイデアを書き込んでいきます。



#### 6. ポジショニング法

テーマについて、2つの観点の強弱によって、アイデアを振り分けていく発想法と収束法を兼ねた方法です。2つの観点の軸を十字に交差させ、4つのゾーンを作り、そこに当てはまるアイデアを度合いに応じて配置していきます。



## 7. マトリックス法

テーマについて、大きな2つの観点を細分化した項目に、アイデアを振り分けていく収束法です。2つの観点を細分化した項目が交差する枠に、当てはまるアイデアを分類します。

	a	b	c	d	e
A					
B					
C					
D					

## 8. 集合法

テーマについて、3つか2つの要素の重なりの有無によって振り分けていく収束法です。3つ（2つ）の要素を部分的に重ねて設定し、独立している部分、重なり合っている部分に該当するアイデアを配置していきます。

